

## 果菜類の減農薬栽培のための土着天敵の増殖技術と採集装置の開発

### 1 中核機関・研究総括者

国立大学法人岡山大学 中筋 房夫

### 2 研究期間

2004～2006年度（3年間）

### 3 研究目的

アザミウマ類、ハダニ類及びアブラムシ類は果菜類の全国的な難防除害虫である。また、これらの害虫防除は近年、優れた殺虫剤や散布法の開発により、比較的容易に実施できるようになったが、消費者の安全志向により減農薬栽培が求められている。他方、マイナー作物では登録農薬が少なく天敵利用に期待が持たれている。

そこで、難害虫防除での減農薬栽培、低コスト化及び省力化を達成するため、既存の生態系に存在する土着重要天敵を積極的に利用する技術を開発する。

### 4 研究内容及び実施体制

- ① 天敵供給基地として有用な草種の選抜及び管理技術の開発（岡山県農業総合センター農業試験場、岡山大学資源生物科学研究所、和歌山県農林水産総合技術センター農業試験場、(独)近畿中国四国農業研究センター）

地被植物の繁殖程度、開花時期、それらに集まる昆虫相等を把握し、天敵供給基地に適した草種の選抜とこれら草種の管理技術を確立する。

- ② 天敵採集装置の開発（(独)近畿中国四国農業研究センター、(株)みのる産業、岡山県農業総合センター農業試験場）  
発生した天敵類を効率的・簡便に回収できる装置を開発し採集方法を確立する。
- ③ 採集天敵放飼による防除効果の実証（和歌山県農林水産総合技術センター農業試験場、岡山県農業総合センター農業試験場）  
天敵採集装置を利用して回収した天敵を放飼し、防除効果を実証するとともに利用マニュアルを作成する。

### 5 目標とする成果

土着天敵を効率的に採集して放飼する果菜害虫の低コスト防除技術が確立される。これにより、多大な天敵の購入経費が不要となり、果菜類の低コスト生産が可能となることが期待される。